

2014年度 人権保育プロジェクトを通して

自尊感情について、2年目の活動となりました。今年度は、プロジェクトメンバーの事例をもとに、皇學館大学の田口鉄久先生の検討を受け、3つのキーワードが示されたことにより、保育園・幼稚園の視察に出かけ、学ぶことができました。

自尊感情を育てるために、根っことなる部分をしっかり支えるよう、保育者・保護者のかかわりや保育環境づくりの大切さを確認し合いました。それにはまず、保育者が保育の質を向上させること。そのために、保育者自身も自尊感情をもって取り組める、安心できる園の雰囲気づくりが大事だと再確認しました。このリーフレットをみて、子どもだけでなく、子どもをとりまく周りのおとなの自尊感情についても再確認することができればと思います。

人権保育プロジェクトメンバー 一同

アンケートから 頂いたご意見

2013年度のリーフレットに対して、アンケートを通じて様々なご意見をいただきました。

みなさまのご意見をもとに、より分かりやすく、より活用しやすいリーフレットづくりをめざしていきます。

今後、職員同士でも
さらにお互いのことを理解して、
尊重し合っていきたいと思う。

おとなの関わり方が
子どもの自尊感情に大きく
影響することを考えると
責任を感じる。

自分を見つめ直し、
まず自分を好きになることから
始めていき、子どもたちや
保護者、保育士を見つめる
目を変えていくよい機会
になった。

より良い自己との出会いとしての“自尊感情”

自尊感情って何?自尊感情が低い子どもってどんな子ども?本年度の取り組みを私たちは、そんな問いからスタートしました。このような問いからスタートしたのは、昨年度の自尊感情に関する取り組みの反省として、自尊感情という言葉自体を曖昧なまま使ってきたのではないかという反省があったからです。

自尊感情という言葉だけが一人歩きしないよう、具体的な事例を検討し、様々な園の取り組みや子どもの事実から学ぶことで自尊感情が高まっている子どもたちの具体的な姿と実践のあり方を模索してきました。

ところで、育ち(学び)は、対象(遊びや活動の中で触れていく自然や言葉、音楽等)との出会い、他者との出会い、自己との出会いという3つの出会いで構成されています。これらは、遊びを通して他者と出会ったり、他者を通して言葉と出会ったりと、相互に関係し合っています。どのような出会いをしていくかが育ち(学び)では重要です。

自尊感情という自己との出会いも、対象や他者との出会いに影響されます。遊びや活動を通しての対象との出会いや、友だち、保育者、保護者、様々な他者とのより良い出会いの結果としてのより良い自己との出会いが自尊感情を高めることに結びついていきます。

人権保育プロジェクト アドバイザー

鈴鹿短期大学 長澤 貴

このリーフレットのバックナンバーは、公益社団法人 三重県人権教育研究協議会のホームページからダウンロードできます。

<http://www.sandokyo.jp>

- ▶ 2006年度 / 「節分・雛祭りを人権保育の視点で考える(中間報告)」
- ▶ 2007年度 / 「節分・雛祭りを人権保育の視点で考える(最終報告)」
- ▶ 2008年度 / 「いじめ対応の根っこにあるものは?」
- ▶ 2009年度 / 「多文化共生から人権保育を考える①」
- ▶ 2010年度 / 「多文化共生から人権保育を考える②」
- ▶ 2011年度 / 「多文化共生から人権保育を考える③」
- ▶ 2012年度 / 「多文化共生から人権保育を考える④」
- ▶ 2013年度 / 「自尊感情を育むには…」

三重県人権保育推進支援事業

2015年3月 発行

三重県健康福祉部
子ども・家庭局 子育て支援課



再生紙を使用しています。植物油インキを使用しています。

自尊感情を育むには…②

昨年度の人権保育プロジェクトで、子どもの自尊感情について考えました。

そこで、今年度は、事例検討や視察研修を通して、より具体的に「子どもの自尊感情はどのように育っていくのか」を研究しました。

皇學館大学の田口鉄久先生と共に事例検討を進めていく中で、3つのキーワードがみえてきました。

- ★楽しいあそびや興味ある活動への参加
- ★安心してすごすことのできる園生活
- ★子どものすてきな姿を介した保護者とのコミュニケーション

この3つのキーワードの中には、環境(人的・物的)や保育者自身の自尊感情も大きくかかわっていることがわかりました。

愛の園幼稚園(奈良県)

一人ひとりが与えられた力をめいっぱい発揮し、共にあそびの場を広げ、心が豊かになるよう、それぞれのペースを大切にしている。“ぼくもわたしもみんなが主役”であり、「共に生きる社会」をめざして、卒園後もとぎれのない支援を提供している。



視察研修より

都南保育園(奈良県)

毎月、テーマを決めて保育内容を考え、子どもが意欲的に遊べるようなコーナーづくりや環境の工夫がされている。

また、育児担当制保育を実施し、子どもとの信頼関係を築く中で、生活習慣の確立をめざしている。



せんりひじり幼稚園(大阪府)

子どもたちにとって、自分の育ちの記録であると同時に、自分が愛された記録、ずっと自分を好きでいられるための記録となるよう、ポートフォリオ(*)をつづっている。

育ちを支える保育者には、職員関係の深まるワークショップをしたり、学年ごとによく話し合いをし、支え合い、心を合わせて保育できる良好な同僚性を築いていけるようにしている。



(*)せんりひじり幼稚園では、子ども一人ひとりの育ちや気持ちを理解し、保育の質を向上させるために、子どものエピソード記録や写真を元に各学年で話し合うことに取り組んでいる。写真には担当からのコメントを書き加え、子どもたち一人ひとりの育ちの記録として個人ファイルに残している。このファイルは、保護者がいつでも見られるように各クラスに置かれている。

子どもの自尊感情を高めるために…

楽しいあそびや
興味のある活動
への参加

当番活動や運動あそびへの
挑戦、異年齢活動への参加
によって得られる達成感や
満足感が子どもを充実した
気持ちにします。



安心してすごす
ことのできる
園生活

ふれあいあそびや自分のやってみたいあそ
びを保育者と一緒に楽しむ中で、
甘えや不安を受けとめて
もらい、子どもの心は
安定します。



子どものすてきな姿
を介した保護者との
コミュニケーション

大好きな家族や保育者に受けとめ
られることで、子どもは自信をつ
けていきます。



わくわくする空間

- ・自分で選ぶ
- ・自分で考える
- ・自分で感じる
- ・自分で決める

「あしたはぼくのばん！」

見通しをもった行動

生活の流れがわかる
(当番活動の順番や内容、行動
予定など)

気持ちや情緒の安定

- ・決まった場所で好きな
あそびが続けられる安心感
- ・自分自身の居場所がある

「ここがだいすき！」

友だちとの共通体験

- ・友だちから認められる
- ・友だちと思いを共有する

「いっしょにあそぼ！」

「せんせい、だっこ！」

保育者との信頼・愛着関係

- ・安心して甘えられる
- ・人への興味をもつ

保護者との共感

- ・保護者の思いや願いを知る
- ・子どものすてきな姿を発見する
- ・子どもを肯定的にとらえる

「先生、きいて！」

もの（物的環境）

よりよい保育・ 教育の提供

ひと（人的環境）



良好な同僚性 (※)

保育者間の良好なコミュニケーションと保育者自身の自尊感情の相互作用的な高
まりがより良い保育・教育を提供する基盤となります。保育者自身が安心し、そ
して育つことのできる園が、子どもにとっても安心して育つ園となります。

安心してできる雰囲気醸し出す園



保育者の自尊感情 (※)

(※)「良好な同僚性」と「保育者の自尊感情」については、昨年度のリーフレットの中で、人権保育プロジェクト アドバイザーの長澤貴先生より、次のようなコメントをいただいています。

保育者どうし、専門性を高め合う中で、保育者としての自尊感情が高められていくのは言うまでもありません。それ以上に素敵なのは、子どもの自尊感情を高め、子どもの輝く瞳の中に保育者としての自尊感情を見いだした時なのではないでしょうか。